

# 人文学部卒業研究

多治見市のまちおこし

題目                      ～伝統の美濃焼を中心に～

---

指導教授                      栗木 千恵子

印

---

提出年月日                      2018年 12月 14日

---

学籍番号                      HI15048

---

氏名                      西村 知也

---

## 「多治見市のまちおこし ～伝統の美濃焼を中心に～」

HI15048 西村 知也

### 要旨

本論文では、日本有数の陶器ブランド美濃焼の名産地である岐阜県多治見市がどのようなまちおこしをしているのかを明らかにし、多治見市のまちおこしの現状と、他の地域のまちおこしを比較し、多治見市のまちおこしは成功しているのか失敗しているのかを研究し考察するものである。全国 31 種類ある日本の陶磁器の中でも、美濃焼は国内陶磁器シェアの半分以上を占めているブランドだ。しかし、有田焼は佐賀県、備前焼は岡山県のように陶器名で地名が連想できるのに対し、美濃焼は他の地域と異なり多治見市を連想出来ない人が多い印象を抱いている。

本論では、「国際陶磁器フェスティバル美濃」の主催者と観覧者、「たじみ陶器まつり」の主催者へ聞き取り調査を行った。また、全国の陶磁器の歴史と特徴、さらに他の地域のまちおこしの事例を調べた。

第 1 章では、多治見市の歴史を簡単に紹介し、美濃焼の歴史や特徴を説明、そのうえで他の焼き物である信楽焼・備前焼・有田焼それぞれ特徴を調べ、美濃焼との違いを比較した。他のそれぞれの焼き物と美濃焼では、模様や形だけでなく窯の歴史も異なることが分かった。

第 2 章では、まちおこしを中心に挙げた。まちおこしの定義を明らかにしたうえで、岡山県旧赤坂町と北海道由仁町の 2 つのまちおこし事業を紹介し、まちおこしの観点からどのようにして成功を収めているのかを分析した。旧赤坂町のまちおこしでは、およそ 33 億円の経済効果を得ていた。由仁町のまちおこしでは、産業事業はもとより観光事業においても成功を収めていたことが分かった。

第 3 章では、多治見市の美濃焼に関するイベント「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」と「たじみ陶器まつり」の以上 2 つの事業について調べた。「国際陶磁器フェスティバル美濃」と「たじみ陶器まつり」の主催者側に対し、今回のイベントの中の取り組みの意図、成果を聞き出したうえで、自らもイベントに参加しそれぞれの利点欠点を模索する。そして、「国際陶磁器フェスティバル美濃」では観覧者にも聞き取り調査を行い今回のイベントの印象を確認し、それらを踏まえこれからどのような催しを行えば多治見市のまちおこし成功につながるのかを考え提案する。

### キーワード

多治見市 美濃焼 まちおこし 国際陶磁器フェスティバル美濃 たじみ陶器まつり

## 目次

序論.....	1
1. 研究目的.....	1
2. 研究方法.....	1
2-1 分析データ.....	1
2-2 分析方法.....	2
第1章 美濃焼について.....	3
1-1 岐阜県多治見市の歴史.....	3
1-2 美濃焼の歴史や特徴.....	4
1-3 他の焼き物の特徴.....	8
1-3-1 信楽焼.....	8
1-3-2 備前焼.....	8
1-3-3 有田焼.....	9
第2章 まちおこしについて.....	9
2-1 まちおこしとは.....	9
2-2 まちおこしの事例.....	10
2-2-1 赤坂天然ライス.....	10
2-2-2 由仁ハーブガーデン.....	11
第3章 陶器イベント.....	12
3-1 国際陶磁器フェスティバル美濃.....	12
3-2 たじみ陶器まつり.....	15
結論.....	19
〈参考サイト〉.....	19
〈参考文献〉.....	20
〈付録1〉 図.....	i
〈付録2〉 聞き取り調査.....	v